

電気通信大学 機器分析センター 低温室



液化窒素庫



液体ヘリウム貯槽・ヘリウム液化機

電気通信大学低温室は 1972年に設立され同年4月から液体ヘリウムおよび窒素の学内供給を開始した。1988年にヘリウム液化機の更新を行い、1994年に機器分析センターの設置とともに低温部門として発足した。

2000年に新設された東6号館に移設するに当たって、新システムは東京大学物性研究所より譲り受けた液化機種の機器と新たに購入した液化圧縮機種の機器により構成された。

その後、2003年度から2005年度にかけて、長尺容器とガスバッグの増設、学内四地区へのヘリウム回収配管の敷設などを行い、現在に至っている。2004年度から研究協力の一環として東京農工大学への供給も行っている。2007年度は長尺容器6本の増設を行う。



回収圧縮機



長尺容器



液体窒素貯槽

ヘリウム液化システム 2000年導入

ヘリウム液化機	Linde	TCF50	60 L/h
液体ヘリウム貯槽	CRYOFAB	CMSH2000	2000 L
液化圧縮機	KAESER	DS 241	840 m ³ /h
回収圧縮機	Burckhardt	C5U 2.12	90 m ³ /h
中圧乾燥器	小池酸素製	2槽式	
ヘリウム回収ガスバッグ		10 m ³	3台
長尺容器		75 m ³	24本
液体窒素貯槽	岩谷ガス	CEA-10K	9700 L